

令和3年度自己評価結果報告書

学校名 湯梨浜町立東郷小学校

校長名 本田 弘樹

1. 学校の教育目標

- 特別活動を中心にした「主体的、対話的で深い学び」により「自分の学びを高めようとする」児童の意欲向上の推進と、初年度となるGIGAスクール構想の円滑な始動
- チーム対応による生徒指導力の向上と特別支援教育の充実
- 特色ある「ふるさと教育」の推進

2. 重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

- (1) 学ぶ意欲の向上と確かな学力の向上(学びの力づくり)
- (2) 支え合い高め合う人間関係づくり(豊かな心づくり)
- (3) 健やかな体づくり(健康な体づくり)
- (4) 地域に根ざし開かれた学校づくり
- (5) 業務改善の推進

3. 評価項目の達成及び取組状況

◎「3・4」の評価結果の表示方法 A…十分達成されている B…達成されている

C…取り組まれているが、成果が十分でない D…取組が不十分である

評価項目	結果	課題
(1) 学びの力づくり	B 中間 B R2 B	【成果】 ①特別活動を中心に、全職員が研究授業を行う ・特別活動にしぼって研究した。昨年度から県・町教委指導主事に系統的に指導助言をいただき、研究も焦点化し足並みもそろってきた。 ②タブレットを活用し、児童の多様な考えを引き出す教師のコーディネート ・情報教育主任がリードしながら、児童・教員が操作に「慣れる」ことから始め、2学期以降は全学年で活用する場面が増えてきた。 【課題】 ・保護者アンケート結果で次の項目が昨年度より低下した。 6「お子さんは、授業が分かりやすく楽しいと言っている」 14「学校は、分かりやすく子どもが意欲的に取り組む授業に努めている」 15「学校は、子どもに基礎的な学力がつく指導を行っている」
(2) 豊かな心づくり	B 中間 B R2 B	【成果】 ①あいさつ運動、児童のボランティア活動の機会を増やした自尊感情の醸成 ・委員会活動を中心に、朝のあいさつ運動等で盛り上げる工夫を図った。 ②報連相の徹底、効果的なケース会議・関係者会議 ・丁寧、迅速に進めることができた。 【課題】 ・児童からのボランティア活動は思うように進んでいない。 ・いじめが7件(昨年度8件)、不登校児童は5名(昨年度2名)と増加した。

		・児童アンケート結果で、次の項目が昨年度より低下した。 1「学校に来るのが楽しい」 16「朝や帰りに、自分から笑顔であいさつをしている」 25「自分はだれか(何か)の役に立っていると感じる。 ・保護者アンケート結果で次の項目が昨年度より低下した。 2「お子さんは、元気のよいあいさつや返事ができる」
(3) 健康な体づくり	C 中間 B R2 B	【成果】 ①「くらしのやくそく」の普及 ・児童アンケート結果 19「『くらしのやくそく』を守っている」が微増した。 ・保護者アンケート結果 3「お子さんは、テレビやゲームの時間を決め、それを守っている」が増加した。 ②新型コロナウイルス感染症の対応 ・感染状況をみながら柔軟に対応した。 【課題】 ・コロナ対策のため学校保健委員会が2回とも中止となり、医師等や地域の方と協議を深めることができなかったのが残念である。 ・コロナ対策による影響(体力低下、体験・人間関係づくりの不足等)が心配である。
(4) 地域に根ざし 開かれた学校 づくり	A 中間 B R2 A	【成果】 ①学校運営協議会(CS)の効果的な運営 ・計画的に進めることができ、授業参観等をとおして学校の状況を見ていただくことができた。 ②新たな支援ボランティア、「ふるさと教育」の位置づけ ・支援ボランティアの方の協力が広がり大変ありがたかった。 ・ふるさと教育担当教員の配置で連携がさらに広がった。 【課題】 ・CSを昼間に行い、授業参観をしていただくと全員がそろいにくい。 ・読み聞かせボランティア、調理実習ボランティアの中止などの影響も大きい。 ・「ふるさと教育」が学年単位で単発的にならないよう、系統的に位置づける必要がある。
(5) 業務改善の推進	B 中間 B	【成果】 ①柔軟な学年経営の取組、②若手を全職員で育成する雰囲気づくり ・職員がチームで動く雰囲気があり、若手担任も着実に力をつけてきた。 ③校内衛生委員会の実施 ・各学期末の教育反省であがった提案等を検討し、改善につなげることができた。特に月に1回の職員会では共通理解が難しいという意見があり、毎週終礼をもつことで情報の共有を進めることができた。 ・ストレスチェック結果が「職場環境によるストレスが少ない傾向」であった。

	R2 C	【課題】 ・全職員に情報をオープンにして共通理解を深めたり、学校がチームになって課題解決や研究を推進するためには、会議の時間は不可欠である。その時間を生み出すことが課題である。 ・1月末時点で時間外勤務が360時間を超えた職員が5名以上いる。
--	------	---

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結 果	理 由
B 中間 B R2 B	(1)の学習面については、研究を一つに絞ったことで焦点化して推進することができたが、ねらいとしている「表現力・対話力」が他教科にも影響を及ぼしたか検証する必要がある。また、「わかる授業」「基礎学力が身につく授業」につながる研究が求められる。 ICT教育についても、基本的な操作の習得を継続しながら、児童の思考力や表現力を育む活用や、いつでもオンライン授業ができる技能を身につける必要がある。 (2)の生活面については、生徒指導体制や支援会議等の取組については体制が整いつつあるが、その基盤となる学級経営(授業づくり、人間関係づくり、人権意識の高揚)の充実を図らなければならない。 (3)の健康面については、学習時間、寝る時間、テレビ・ゲーム・SNS等の時間の目安を保護者に知ってもらう手立てを講じる必要がある。また、今後もコロナの状況を見ながら、体力向上、体験活動や「遊び」の機会の保障を図る必要がある。 (4)の地域とのつながりについては、CSで学校の運営を理解してもらう一層の工夫、熟議の推進を図る必要がある。併せて、保護者や地域に学校の活動を理解してもらえる情報の提供について検討していただく機会をお願いしたい。また、CSと「ふるさと教育」がさらに密接につながる工夫とともに、児童がボランティアをする側になる方法も検討したい。 (5)の業務改善については、若手や学級経営等に悩んでいる職員に対して、チームで支える同僚性があり有り難い。時間外勤務は、生徒指導事案が起きれば必然的に増加する。児童にとって安心・安全で、落ち着いた学校になるのは、上記(1)～(4)の総体であると考えている。 ○学校アンケートで特に保護者アンケートの結果が全体的に前年度より下降した。その結果を次のように考察してみた。 ①コロナの影響で今年度も参観日や学級懇談会を中止・縮減することとなり、学校の状況を知ってもらう機会が減少したのではないかと。(参観授業2回、学級懇談会1回) ②コロナ対策が2年目となり、体験的活動や友だちとの交流が制限されることが続き、遊ぶことも少なくなり、児童の閉塞感が増したのではないかと。 ③いくつかの学級の児童が落ち着かない状況があったことが反映されたのではないかと。 ④アンケートをスマートフォン・タブレットと紙面での2通りの回答方法をとったことで、素直な回答を得ることができたのではないかと。 (保護者回答はSNS93名、紙面90名。児童回答は全員タブレットで回答した)

(様式4)

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取組方法
(1) 学びの力づくり	① 研究推進は「特別活動」は令和4年度で総括し終了する。 ② ICTを活用した授業研究を年に3回計画的に実施し、表現力を高めるための活用や技能教科での活用に取り組む。 ③ 令和6年度に家庭科の中国・四国大会の研究校となったため、3年計画の1年目と位置づけて研究を始める。
(2) 豊かな心づくり	① 特別活動の研究を足がかりに、学級経営の充実を図る。 ② 「ふるさと教育」とおとして、児童の成長に必要な行事、体験活動、「遊び」等の系統的な計画を立てる。
(3) 健康な体づくり	① 学習時間、寝る時間、ゲーム等の時間の目安を保護者に広く理解してもらう手立てを講じる。 ② コロナ対策をしながら効果的な体力向上の工夫を図る。 ③ 体育主任等が負担にならないよう協力体制を検討する。
(4) 地域に根ざし 開かれた学校づくり	① ふるさと教育、家庭科とCS及び地域学校協働活動の連携をお願いする。 ② CSをとおして、こ保小連携や社会教育との連携を深める。 ③ 保護者・地域への情報提供の在り方について検討をお願いする。
(5) 働き方改革の推進	① (1)～(4)の目標に向けた取組を実施し、安心・安全で落ち着いた学校づくりをめざし、時間外勤務の縮減を図る。 ② 生活時程を見直し、勤務時間内に教材研究や陸上クラブ等の時間を保障することに努める。 ③ 令和4年度から、この(5)の目標を削除する。